

市民まちづくり懇談会会議録（発言要旨）

と き	平成29年5月23日（火） 19:30～20:45
と ころ	但東庁舎 2階 大会議室
市出席者	市長、政策調整部長 事務局（政策調整課：4名）
参加人数	46名（男性43名、女性3名）
会議録（発言要旨）	
男性A	今日の説明は概要であって、具体的なものは市が作成するというだけでよいか。12年の長期にわたるが、例えば4年ごとに検証する予定はあるのか。
市 長	<p>基本構想には、基本的にはこれ以上具体的なものは入らないとご理解ください。大筋としてどういう方向に行くのかを定めるのが基本構想です。</p> <p>ただし、それだけでは個々の施策まで明らかにならないため、4年区切りでさらにもう少し具体的にどういうことをやるのか、最終的には個々の年度で予算化し、その意味では具体的なものとなりますが、基本構想は、今のようなレベルのようなものになります。</p> <p>4年ごとに見直すことは今は考えていませんが、ご指摘いただいたので、今後どうするか考えたいと思います。ただ12年の長期なので、細々とした修正をその都度する必要はないと考えています。</p> <p>12年かけて目指すべき方向を大きく変えなければならないことがあれば、基本構想自体の修正をする議案を議会に提出することになります。</p> <p>ただし、その目標が変わらなくとも、それを達成するためにこの方向に行こうとしたが、やはり始めてみると、この方向では目標に達成しないとすれば、方向自体を修正していくことになります。</p> <p>それは必ずしも4年ごとではなく、1年経ったところでも、この方向は具合が悪いとなれば、そこは果敢に変えれば良いと思っています。</p> <p>具体的に言えば、主要手段2で「地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、引き継がれている」、この抽象度では実際何をしたらいいのか、なかなかわからない。これを基に次の4年間で何をするかというときに、もう少し具体的なものを盛り込んでいく。</p> <p>予算自体は毎年1年ごとに事業を決めていくので、さらに詳細なことについては毎年度決めていく。</p> <p>しかし、その柱は「地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、引き継がれていく」なので、この路線からは外れてはならない。この路線の中で、より効果が出るものは何なのかを絶えず検証しながら役に立たなくなったと思えばそれを止め、新しいもので効果的な手段が見つかればそれを行っていく、そんなふうにご理解をしていただきたい。</p>
男性B	今日まで市長がやってこられたことと12年間の基本構想はそんなには方向が違ってはいないんだろうと思うが、新しく取り組むものがあれば聞きたい。
市 長	<p>これまで私自身が市長として市民の皆さんに「小さな世界都市」を実現すると言ったことと基本的には合致しています。</p> <p>今回の基本構想の中に、特にこれまでと違う要素が加わっています。それは「多様性」というところです。</p> <p>多様性を受け入れるということは、世の中にはいろんな人がいて、人は違って当たり前なんだということをまず認め合い、価値観が違う者同士が話し合いをして違いを乗り越えて結論を出すという姿勢を持つ必要がある。</p> <p>これまで以上に私たちのまちには海外からの観光客だけではなく、このまちに住み着いて、あるいはこのまちの企業で働く人たちがたくさん来るだろう。宗教も文化も違う人たちが、このまちを構成する一員だということを認め合って、話し合いをしながら答えはみんなで作りに上げていくということが必要なのではないだろうか。逆にそういうことができないまちが、世界で尊敬されるはずがない。</p> <p>そういったことを示して、障がい者に対する施策でも今までのようなことでいいのか、障がいのある方々が、もっと街の中に出てきて、一員としての姿が見せられるように力を入れましょうという意味が込められている。</p>

	<p>「内発型の地域産業がすくすく育っている」というのは、豊岡市の産業政策の大きな変更を示している。</p> <p>これまで外から企業を誘致することを一生懸命して、ほとんど工場誘致でした。ところが現実的な問題として、工場はどんどんコストの安い海外に作ってしまう。人口減少の関係でいくと、私たちは若い人に帰って来てほしいが、若い人は工場労働者として帰って来るかということを考えていくと、外から工場を誘致して職場をつくってまちを元気にするというストーリーはこれからだんだん有効性が無くなるのではないかと。</p> <p>そうだとすれば、豊岡の中で会社を興して挑戦をする、あるいはすでにある企業が自分のところの技術をもっと高度化して、豊岡に拠点を置きながら世界に打って出るような企業も現実に出てきているので、そういうものをもっともって育てるためにはどうしたらいいのか。</p> <p>農業に関しても、本当に品質の良いものを作って高く買っていただくような取り組みを応援するような方向に舵を切っていこうと、外発的ではなく中から育てていこうということが、私たちがこれまで言っていた「小さな世界都市」と、今回提案されている「小さな世界都市」の大きな違いなんだろうと思います。</p> <p>これまでの「小さな世界都市」は、どうせ豊岡には、大したものはないだろうとの考えを、豊岡だって世界に通用する素敵なものがあるから、それを磨きましようというのがこれまでの考え方です。</p> <p>今度は考え方を改めて、そもそも世界で尊敬されるまちになるためにはどういうことが必要なんだろうと、環境問題に対してちゃんと貢献をしている、いろんな人たちをちゃんと受け入れている、あるいは様々な企業努力が活発におきている、自分たちが受け継いできた伝統を守っているなど必要条件を洗い出して、それをこれから身に付けていきたいと思います、考え方や発想が変わってきているということが大きな違いだと思っている。</p> <p>人口減少対策のことを言われましたが、2010年と2015年の人口回復率を比べると、10代で失われた人口を20代で取り戻してきていますが、男女別に見ますと、男性が増えて女性は若干減っています。若い人を取り戻すというときに、豊岡がこれから力を入れなければならないのは女性なのではないかと考えている。</p>
男性C	<p>モンゴルといろんな交流のしかたがあると思うが、今後の市長のお考えを聞きたい。</p>
市長	<p>モンゴル博物館ができて今日まできて、ちょっと一服感があるのが正直なところだと思う。</p> <p>モンゴル本国とのやりとりというのはこれからも続けていく必要があるが、一気に広がるには相当課題があると思う。</p> <p>そもそも物理的にそんなにしょっちゅう行き来できないが、日本におられるモンゴルの方々とのつながりをもっと強めるというところに一つ狙い目があるのではないかと。このつながりをもっと強めることができれば、その方々を通じてモンゴル本国とのつながりがはっきりとしてくるのではないかと。</p> <p>パートナーとしてのあり方は、これまでのつながりも大切なことだが、将来のことを考えたときにまだ改善の余地があると考え、このへんを強めていきたいと思っている。</p> <p>モンゴルとの関係がまだ豊岡市との関係になっていない。厳しい見方から言えば、但東の方とモンゴルの関係が豊岡市全体から見ると細々と続いているにすぎないという状況だと思う。これを豊岡市全体とモンゴルとのつながりにするためには、どうしたらいいのか。但東の今の人口で支えるよりも、豊岡市の8万2千人でやったほうが力が出ることは間違いないので、この方向をどうすれば実現することができるかを今後考えていく必要があると思っている。</p> <p>結果的にオリンピックのボクシングの誘致は島田市にさらわれてしまってダメになったが、あれを元々やろうとしたのは、オリンピックの時にただ盛り上がりというだけではなく、そのとき一気に豊岡市のモンゴル、あるいはモンゴルと豊岡市の関係にして、豊岡市民全体がもっともって目を向けて、その中でこれまでの但東とモンゴルのつながりに目を向けていただいて、モンゴル博物館の価値にもっともって気づくというふうなきっかけにできないだろうか。</p> <p>もし来ていたとすると、合宿する場所も但東だけに限らず、豊岡の街中にもモンゴルの人たちは姿を見せるというのを描いていたわけですが、だめになりましたが、今年はモンゴルから少年野球が来ますので、豊岡のチームと試合をやったり、NOMOベースボールクラブとモンゴルの少年野球チームの交流を予定しているのですが、豊岡とモンゴルというふうに裾野を広げていくことをやりたいと思っている。</p> <p>相撲はずっとモンゴルの力士が頑張っているが、正直日本人の心の中に、やっぱり日本人だという願いがあって、日本全体から見ればそうかもしれないが、豊岡はモンゴル最層でいいのではないかと。モンゴル博物館でモンゴルの歴史を検証するようなことを大使館の方々と協働し</p>

	<p>ながらやっていくと、日本にいるモンゴルの方々とつながりを強めていくことができ、その中でみんなの視野が広がり可能性が見えてくるんじゃないか、そんなことを探りたいと思っている。</p>
男性D	<p>住んで幸福感を感じるまちになったら、黙っていても人は来るんじゃないかなと思う。</p>
市長	<p>この基本構想の考え方の根底にあるのは、便利なまちをつくらうとか、そういうことを目指してはなく、みんなが幸せに生きられるまちをつくらうよということです。</p> <p>幸せとは何だという哲学的に議論すると人それぞれですけれども、どんな時に人が幸せを感じるかというのは、かなりわかってきた。必ずしも便利であるから幸せになるとか、お金がたくさん入ってくるから幸せであるとかではなくて、たとえば自分でトライをすることができて、その結果失敗することがあったとしても、自分で何か挑戦をすることができたり決めることができた時に人は幸せを感じるのか、誰かに存在を認められた時に幸せを感じるということがわかってきました。</p> <p>多様性を認めるということは、もし否定されたらどういうことになるか。障がい者の方が「我々の社会にいてほしくない」と、もし誰かに言われてしまえば、その人は全然幸せじゃないことになります。</p> <p>大切な仲間の一員だと言って受け入れてもらえた時に人間は幸せを感じることができる。ただ庇護されるのではなくて、障がいのある方でも地域あるいは社会の中で何かしら役割を果たして、そのことによって、本当に誰かの役に立っているということが実感できたときに幸せを感じることができるんじゃないか。ブータンの例をお話になりましたけれども、そういったものを目指したい気持ちがこの答申の中に出ているのではないかと考えている。</p>